

新 1 年次の研修医の先生がたがデビューしました

4 月 1 日、医師国家試験に合格した 44 名が佐賀大学医学部附属病院プログラムでの臨床研修を開始しました。うち 1 年目を県立病院好生館(2 年目を佐賀大学)で研修開始する 6 名の先生を除いた 38 名の先生方に対し 6 日間のオリエンテーションが行われました。



オリエンテーションは大きく 3 つのパートにわかれています。一つめは基本的診療能力や医師の倫理・患者の権利、社会人としてのマナーやコミュニケーションなどに関するもの、二つめは就業や研修に関する諸手続きや、佐賀大学医学部附属病院関係各部署の機能を知るためのもの、三つめは採血や点滴などを始めとする診療に必要なスキルや電子カルテ上の処方や指示の入力、書類の書き方などの医師としての業務に関するトレーニングです。



4 月 5 日には昨年にひきつづき本年度も佐賀県内の新研修医の先生が一堂に会しての合同オリエンテーションが行われ、森岡恭彦・東京大学名誉教授による「医師の職業倫理とその実践」についてのご講演も行われました。



新研修医の先生がたにはみっしりと内容の濃いオリエンテーションを終え、4 月 9 日から各病棟の現場にデビューしています。今後、彼らの活躍を応援・ご指導ください。
(吉田和代・江村正)

新入生を迎えて

平成 22 年度佐賀大学入学式が 4 月 6 日(火)に佐賀市文化会館で挙行され、医学部及び医学系研究科には、学部生 176 名(医学科 106 名、看護学科 60 名、看護学科 3 年次編入学 10 名)と、大学院生 58 名(博士課程 36 名、修士課程医科学専攻 11 名、修士課程看護学専攻 11 名)の新入生を迎えました。

また、今回の入学式では学部生代表として、医学科の徳永将勝君が佛淵学長の前で新入生宣誓を行いました。

入学式後には学部生に対するオリエンテーションが 8 日(木)まで実施されました。8 日のオリエンテーション終了と同時に、講義棟前で待ち構えていた在校生による新入生歓迎活動が始まり、キャンパス内のあちこちで賑やかな勧誘活動が行われました。



新入生には、チューターを始めとする先生方や在校生の先輩たちにわからないことなどを相談するなどして早く大学生活に慣れていただきたいと思います。

なお、医学部の新 1 年生の内訳は次のとおりです。

(内訳)

医学科 106 名

男子学生 63 名、女子学生 43 名

うち九州内の高校出身者 87 名

(そのうち佐賀県内の高校出身者 21 名)

看護学科 60 名

男子学生 4 名、女子学生 56 名

うち九州内の高校出身者 55 名

(そのうち佐賀県内の高校出身者 19 名)

(学生サービス課)

地域医療支援学講座

地域医療支援学講座は地域医療の再生を目標に立ち上げられた寄附講座です。

講座の大きな柱としては、1. 臓器や疾患を限定せず全てに対応する総合内科医の育成、2. 外傷や重症疾患の救命医療まで対応できる小児科医の育成、3. 特に不足している診療科の医師の育成、の大きく 3 つがあります。これらを達成するための方略として、まず本講座に所属する研修医は全て佐賀大学の助教になり身分を保障されながら研修に専念して必要なスキルを充分身につけてもらうようにしました。総合内科医育成プログラムは、大学や県立病院だけでなく様々な地域の研修病院も含めそれぞれの場所で各診療科を一定期間ずつ研修することで、地域や病院の実情に応じた診療スタイルを体験しながら手技を必要とする検査や治療もある程度のレベルまで幅広く学べるようにしています。小児救急医育成プログラムでは大学の小児科や救命救急センターと連携してできるだけ多くの症例を経験できるように工夫されており、研修後に地域の病院に出ても迅速且つ適切に判断ができる程度のレベルまでは全て自ら対応できることを目標としています。不足診療科については本年度産婦人科と麻酔科の研修医を受け入れており今後他科も含めさらに増員していく予定です。立ち上がったばかりの新米講座ですが、本講座のプログラムが地域医療再生のモデルとなるのを目標にさらにブラッシュアップしながら教員一丸となって頑張る所存ですのでどうぞよろしくお願いたします。

(地域医療支援学講座教授 杉岡 隆)

教育広報部会

小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、

江村正、藤田君支、本間治

ご意見をお待ちしています (oday@cc.saga-u.ac.jp)

